

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 13 日現在

機関番号：23901

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2014～2016

課題番号：26670251

研究課題名（和文）歴史理解にもとづく精神保健福祉教育プログラムの開発

研究課題名（英文）The development of history education program for the promotion of mental health and welfare

研究代表者

橋本 明（HASHIMOTO, Akira）

愛知県立大学・教育福祉学部・教授

研究者番号：40208442

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、社会全体の精神障害に対する関心と理解を深めることを目的として、精神医療に関する歴史を素材にした教育プログラムの開発を行った。具体的には、「精神医療ミュージアム移動展示プロジェクト」を立ち上げて、研究期間中にソウル、東京、大阪、京都などで、計8回の「私宅監置と日本の精神医療史」展を開催した。展示会にあわせて、講演会やギャラリートークの実施、あるいは施設見学なども行い、さまざまな背景をもつ来場者との対話を通して、精神保健福祉に関わる諸問題を議論することができた。

研究成果の概要（英文）：This study aimed to develop a history education program for promoting people's understanding of mental disorders. As such a program, "Traveling Museum of Psychiatry" Project was established, and the "Shitakukanchi (the confinement of mental patients at home) and the history of psychiatry in Japan" exhibition was held eight times in Seoul, Tokyo, Osaka, Kyoto and other cities during the research period. Small lectures, gallery talks, or facility tours were also held at the exhibitions, through which the discussion about mental health and welfare was deepened between the organizer and visitors.

研究分野：精神医療史

キーワード：精神医療史 精神医学史 精神保健福祉 医学史 医史学 展示 博物館 社会教育

1. 研究開始当初の背景

わが国の精神障害への関心は概して低い。むしろ、メディアを通じて精神障害への誤解や偏見が助長されかねない現状がある。それを打開する方法として、精神医療や精神保健福祉の歴史をベースにした精神障害理解のための一般市民に向けた教材コンテンツやプログラム開発が有効と考える。

こうした問題意識の背景には、研究代表者らが行ってきた全国的なフィールド調査や歴史的な資料の復刻作業などがある。そこで明らかにされたのは、精神障害に関わる歴史資料の掘り起こしやその保存の必要性と同時に、それら資料の有効活用(展示や教育的プログラム)のしくみを作ることである。とくに後者の点は、社会における精神障害の理解を促進するためには効果的なことである。実際、西欧諸国には多くの精神医学ミュージアムが存在し、精神障害への一般の関心を高める展示や教育プログラムなどが常時企画されている。一方、現在わが国には公共的な施設としての、誰にでも開かれた精神医学博物館・資料館は事実上存在しない。財政的、行政機構上の隘路から、施設の設置や運営は容易ではないからだと考えられる。

研究代表者(橋本)は、これまでに「わが国の近代精神医療史資料の保存と利用に関する基盤整備(平成23~25年度、挑戦的萌芽研究)」の研究費補助金を受け、精神保健医療福祉の分野における、資料の保存や利用あるいはミュージアムやアートとの接点に関わる研究を行ってきた。この研究などを基盤として、本研究は行われた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、精神医療や精神保健福祉に関する歴史を素材として、一般市民や地域社会に向けた精神障害の理解を深めるためのさまざまな教材やプログラムを開発し、提供し、その効果を総合的に検討することである。

3. 研究の方法

本研究で具体的に構想したことは、精神障害の歴史に関わる資料の有効的な活用を「移動型ミュージアム」という形で実践していくプロジェクトである。

試行錯誤を重ねながら、この実践は「精神医療ミュージアム移動展示プロジェクト」として、日本の精神医療史に関する小規模展示会(主たるテーマは「私宅監置と日本の精神医療史」展)を各地で開催し、来訪者との対話を通じて精神障害の歴史と現状の理解を深める手法を開発するという形に収斂していった。

4. 研究成果

本研究の最大の成果は、補助事業期間中に上記の「精神医療ミュージアム移動展示プロジェクト」を国内外の各地で計8回開催したことそれ自体である。それら展示会の具体的な場所と日程(すべて開催期間は3日間から1週間程度、来場者は各会場で100~300人程度)、および開催の概要は次のとおりである。年度ごとに記述していきたい。

平成26年度

1) 人権中心サラム(韓国・ソウル市麻浦区・人権財団のビル内ギャラリー)平成26年11月

パイロット・スタディ的にソウルで行われた第1回目の「私宅監置と日本の精神医療史」展では、写真や図表を配置した韓国語のA1サイズの10枚からなるポスターを作成し、ギャラリー内に展示した。また、展示内容の詳細を説明するパンフレット(A1、24ページ)を作成し、来場者に配布した。同年11月14日午後には、同会場で「日本の精神医療の歴史と現状」と題する講演を行い、参加者と日本や韓国の精神医療に関する意見交換を行った。



(ソウルでの展示会場)

平成27年度

2) ワセダギャラリー(東京都新宿区・早稲田大学構内)平成27年6月

3) サロン・ドゥ・螺 ほか(大阪市中央区・船場ビルディング内)平成27年9月

4) カイロス(岡山市北区・精神障害者地域支援関連施設)平成28年1月~2月

ソウルでの展示会のノウハウを引き継いで、東京・早稲田大学のワセダギャラリーで第2回の「私宅監置と日本の精神医療史」を開催した。新たに展示用の14枚のポスターと32枚の写真パネル、および日本語・英語併記の28ページからなる配布用の内容説明パンフレットを作成した。また、第2回からギャラリートークを会期中に数回設定し、来

場者へ展示内容を説明し、来場者から質疑を受けることにした。続く第3回の大阪、第4回の岡山でも、ワセダギャラリーと同様のプログラムで展示会が開催された。



(ワセダギャラリーでのギャラリートーク)

平成 28 年度

5) 岩屋病院・旧病棟 (愛知県豊橋市・私立精神科病院) 平成 28 年 5 月

6) 東京都立松沢病院 (東京都世田谷区・公立精神科病院) 平成 28 年 9 月

7) カイロス (岡山市北区・精神障害者地域支援関連施設) 平成 29 年 1 月~2 月

8) ひと・まち交流館 京都 (京都市下京区) 平成 29 年 3 月

研究期間の最終年度は計 4 回の展示会を実施した。第 5 回の豊橋での展示会は、閉鎖直後の精神科病棟内で行われ、旧病棟ツアーもプログラムに取り入れられた。また第 6 回の東京都立松沢病院の展示会では、来場者は隣接する精神医学資料館見学の機会も持つことになった。第 7 回の岡山では、第 4 回の展示内容との重複を避けるために、私宅監置写真パネルに限定した展示会を開催した。研究期間内の最後となる第 8 回の京都での展示会では、新たに沖縄の私宅監置室に関する A0 サイズのポスターを作製し、展示効果を高めることとした。



(京都での展示会場)

以上が、本研究の中核となった「精神医療ミュージアム移動展示プロジェクト」の実施概要である。これらの展示会は、限られた予算と、必ずしも良好ではない展示環境という制約のもと、いわば発展途上段階での開催を余儀なくされた。しかし、いわゆる保健医療福祉関係者だけではなく、他領域の専門家・研究者、精神障害当事者とその家族、一般市民からも関心が寄せられ、多様な来場者との対話を通じて精神障害理解の向上に一定の貢献ができたと考えている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 30 件)

1. Osamu Nakamura: Family Care of Mentally Ill Patients in Iwakura, Kyoto, Japan - What Made Family Care of Mentally Ill Patients Possible and What Made It Over. *Journal of Psychological Sciences*. 2(1): 39-49 (2016). 査読有

2. 橋本明: 精神医療ミュージアム移動展示プロジェクト ワセダギャラリー (東京) と船場ビルディング (大阪) . *生涯発達研究*, 8: 99-102 (2016). 査読無

3. 橋本明: 「私宅監置と日本の精神医療史」展をふりかえる. *日本精神保健福祉政策学会 JAMHP NEWS*, 48: 1-3 (2015). 査読無

4. 中村治: 精神医療にとって歴史とは何か. *精神医学史研究*, 19(1): 22-26 (2015). 査読有

5. 新宮一成: 精神医学の歴史における精神分析 働き続ける痕跡として . *精神医学史研究*, 19(1): 5-10 (2015). 査読有

6. 板原和子: 江戸時代後期の仙台藩における精神障害者処遇. *大阪体育大学健康福祉学部紀要*, 12: 1-23 (2015). 査読無

7. 橋本明: 「精神医療ミュージアム移動展示プロジェクト 私宅監置と日本の精神医療史 (2014 年 11 月 12~14 日、ソウル)」短報 . *生涯発達研究*, 7: 65-68 (2015). 査読無

〔学会発表〕(計 37 件)

1. 橋本明: 精神医療ミュージアム移動展示プロジェクト「私宅監置と日本の精神医療史」展を開催して. *日本精神神経学会*, 2016 年 6 月 2 日, 幕張メッセ (千葉市).

2. Osamu Nakamura: Mentally ill patients and Iwakura. *The 8th Meeting of the Asian Society for the History of Medicine*, Sep. 30th, 2016, Taipei (Taiwan).

3. 宇都宮みのり: Mental Health and Welfare Issues in Japan: A Historical Perspective. The Joint World Conference on Social Work, Education and Social Development, June 29th, 2016, Seoul (Korea).

〔図書〕(計4件)

1. Akira Hashimoto (ed. Waltraud Ernst): Work, psychiatry and society, c. 1750-2015. Manchester University Press (2016), 378(163-181).

2. Osamu Nakamura (ed. Waltraud Ernst): Work, psychiatry and society, c. 1750-2015. Manchester University Press (2016), 378(182-193).

3. Akira Hashimoto (ed. Christopher Harding et al.): Religion and Psychotherapy in Japan. Routledge (2015), 300(51-75).

〔その他〕

ホームページ等

近代日本精神医療史研究会

<http://kenkyukaiblog.jugem.jp/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

橋本 明 (HASHIMOTO, Akira)
愛知県立大学・教育福祉学部・教授
研究者番号: 40208442

(2) 研究分担者

中村 治 (NAKAMURA, Osamu)
大阪府立大学・人間社会学部・教授
研究者番号: 10189029

新宮 一成 (SHINGU, Kazushige)
奈良大学・社会学部・教授
研究者番号: 20144404

板原 和子 (ITAHARA, Kazuko)
大阪体育大学・健康福祉学部・教授
研究者番号: 50390175

宇都宮 みのり (UTSUNOMIYA, Minori)
愛知県立大学・教育福祉学部・教授
研究者番号: 80367573